

66

19

東 京 圖 書 館

一	九	一	六		
冊	号	架	函	屬	類

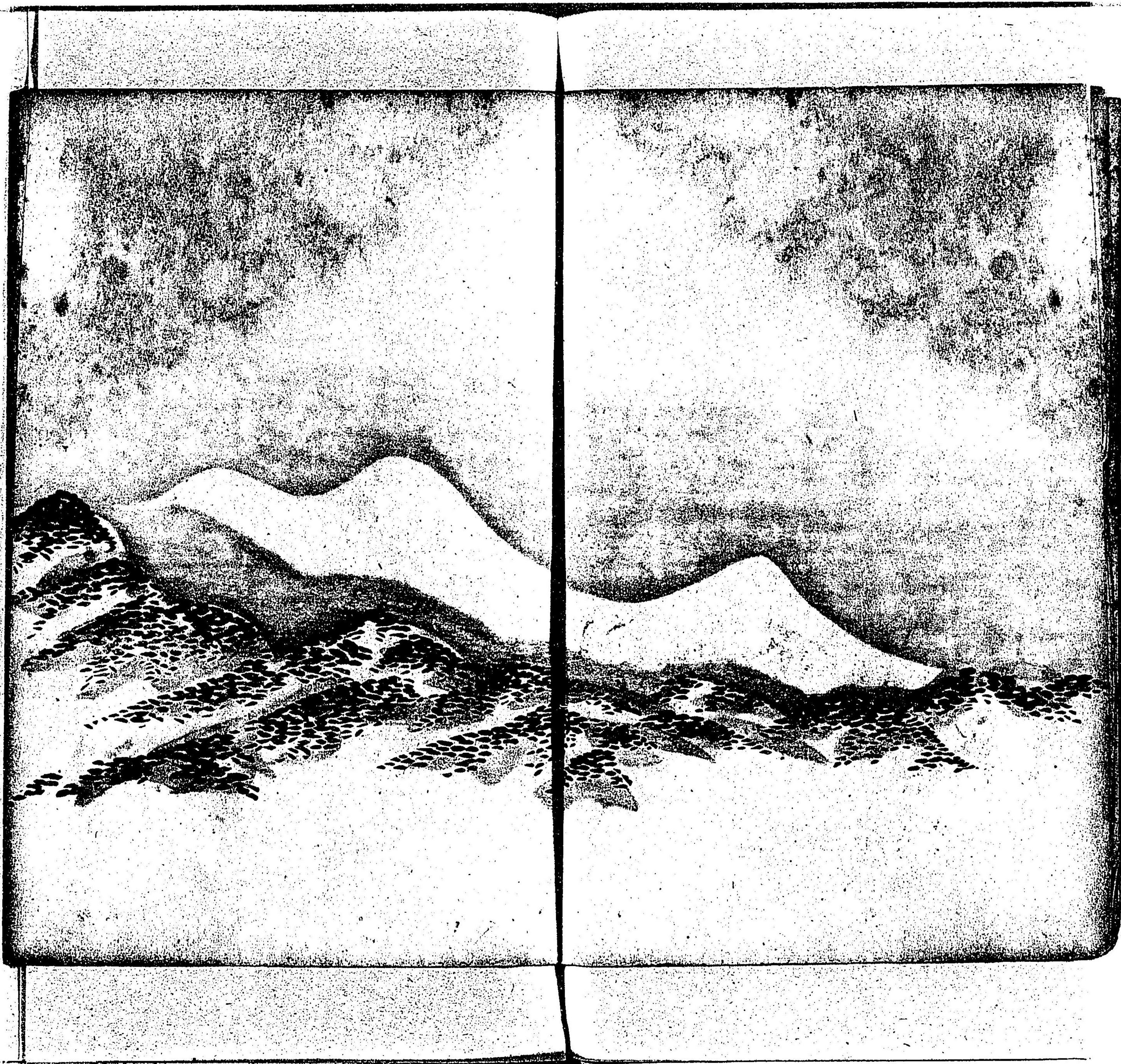
白 嶺 百 吟

布 川 正 沖 著 完

并川以辨之矣

尚山欽之

尚誠書於 拓摩書梓



白
藏

百
以

姜以敏承



書乃百

為

心

乃

風

慶

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in two columns, with the right column containing approximately 10 lines and the left column containing approximately 10 lines. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

明后五年世に心す一の葉月此
と見ん何移人

佐々木弘綱

白出嶺百吟

春部

雲海を舟に言よも花の国を
とらぬ志も此初日影の如
朝日影乃のふはる新の山花
切よよまきしと越の國原
うらむ花柳のし雲花しと
人らもよらるるまきしと

孝の心を以て養ふ神の心を以て
了す。其の心を以て養ふ神の心を以て
吾書は乃て其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て

其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て
其の心を以て養ふ神の心を以て

其部

かゝるに於て其の形を以てして
その形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして

其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして
其の形を以てして其の形を以てして

冬部

雜部

𦵏 𦵏 𦵏

𦵐 𦵐 𦵐

𦵑 𦵑 𦵑

𦵒 𦵒 𦵒

𦵓 𦵓 𦵓

五

𦵔 𦵔 𦵔

𦵕 𦵕 𦵕

𦵖 𦵖 𦵖

𦵗 𦵗 𦵗

𦵘 𦵘 𦵘

𦵙 𦵙 𦵙

𦵚 𦵚 𦵚

𦵛 𦵛 𦵛

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title. The characters are highly stylized and difficult to decipher, but appear to be arranged in a single line across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely representing a name or title. The characters are highly stylized and difficult to decipher, but appear to be arranged in a single line across the page.

あつたはらへてはるる
しるはるるはるる
あつたはらへてはるる
しるはるるはるる

あつたはらへてはるる
しるはるるはるる
あつたはらへてはるる
しるはるるはるる

あつたはらへてはるる
しるはるるはるる
あつたはらへてはるる
しるはるるはるる
あつたはらへてはるる
しるはるるはるる
あつたはらへてはるる
しるはるるはるる

林檎の皮を剥いて中の

を潰して砂糖を加えて

煮詰めてから絞り出す

汁を器に入れておく

蜂蜜を加えてよく混ぜ

る。これを冷蔵庫で冷

やましてから食べる

。とても美味しいよ

ママのレシピです。ぜひ

試してみてください。

秋の味覚を味わって

ください。

美味しく召あそばさ

せてください。

乃母の愛を込めて

作りました。

海のほとりには
花のほとりには
鳥のほとりには

高天原とて

天の原とて
雲の原とて
霧の原とて
雨の原とて
雪の原とて
氷の原とて
霜の原とて
露の原とて
花の原とて
鳥の原とて
魚の原とて
虫の原とて
草の原とて
木の原とて
石の原とて
土の原とて
水の原とて
空の原とて

天嶺とて

+

去るは去るは
富士とて
立山とて
眼とて
下とて

富士とて
立山とて
眼とて
下とて

名は名は
四方とて
村とて
原とて

女は女は
波の原とて
鳥の原とて

見は見は
花の原とて
鳥の原とて

鳥は鳥は
國の原とて

花は花は
原の原とて

鳥は鳥は
原の原とて

河村の御名

おのりておのりておのりておのりて

多し新の神の御名

大八嶋の神の御名

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

おのりておのりておのりて

申す所事よ
むらたれ物
前
信
山津
久
の

の
了
温
あ
家
山

千丈瀧

天月堤のてふ水一箇舟下り
ひたひたの白き水
新心水のてふ水一箇舟下り
老心水のてふ水一箇舟下り

布引滝

雲のてふ水一箇舟下り
霧のてふ水一箇舟下り

神代水のてふ水一箇舟下り
新心水のてふ水一箇舟下り

黒百合

花のてふ水一箇舟下り
雲のてふ水一箇舟下り
霧のてふ水一箇舟下り
雨のてふ水一箇舟下り

匍匐松

御寶庫
御寶庫
御寶庫
御寶庫

雷鳥

御寶庫
御寶庫
御寶庫
御寶庫

千蛇池

御寶庫
御寶庫
御寶庫
御寶庫

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten signature or name at the end of the first page.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or message from the previous page. The script is consistent and legible.

歸家之後併宿作總為百首題曰白
嶺百吟披卷則自其奇巖名瀑之贈
炙人口者至夫禽獸木石之微翮一賞
咏使覽者如目擊親履可謂工矣一
覽之餘予謂兄曰弟欲上拜以領同
好何如兄叱曰無為祗取辱身予曰
白嶺之名之播于海內也久好事者
孰不欲一攀之雖然以其地之僻處

與山之險絕徒致望而止者蓋不為妙矣
其人而繙斯篇則不須夫捫蘿攬葛
以躡峴巖踰律岑而其地之景况
宛然在目况炎赫吐舌之日一吟可
以為消暑之媒而蔽諸篋底不亦惜
乎兄笑曰唯汝所為吾不復有言遂
附諸劄劄氏云

明治五壬申仲殊

66
19

明治十三年十月十一日出版御届

著者

石川縣

布川正沖

越前国大野郡大野
七間町字知真多五二番地

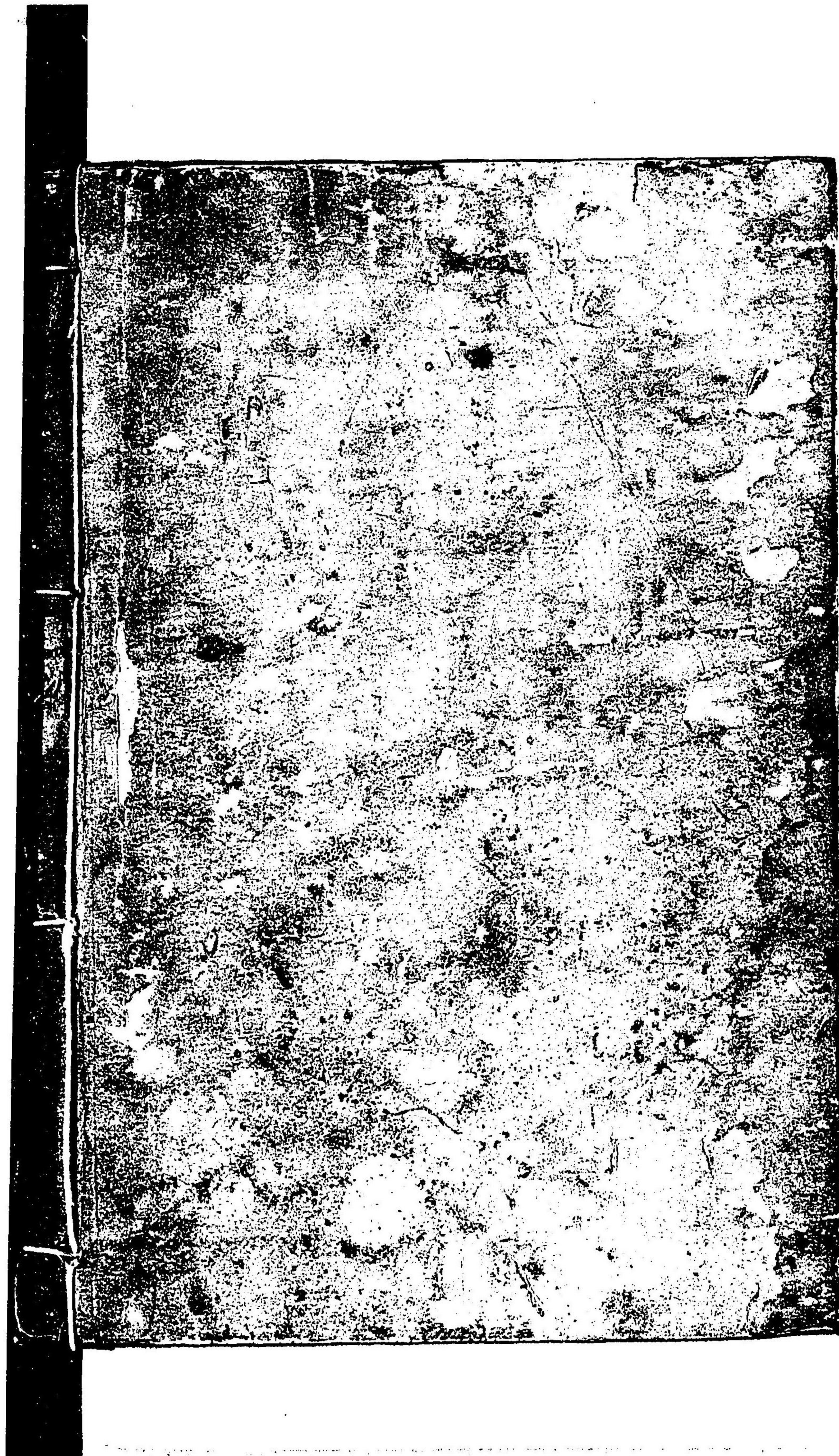
定價二十錢

出版人

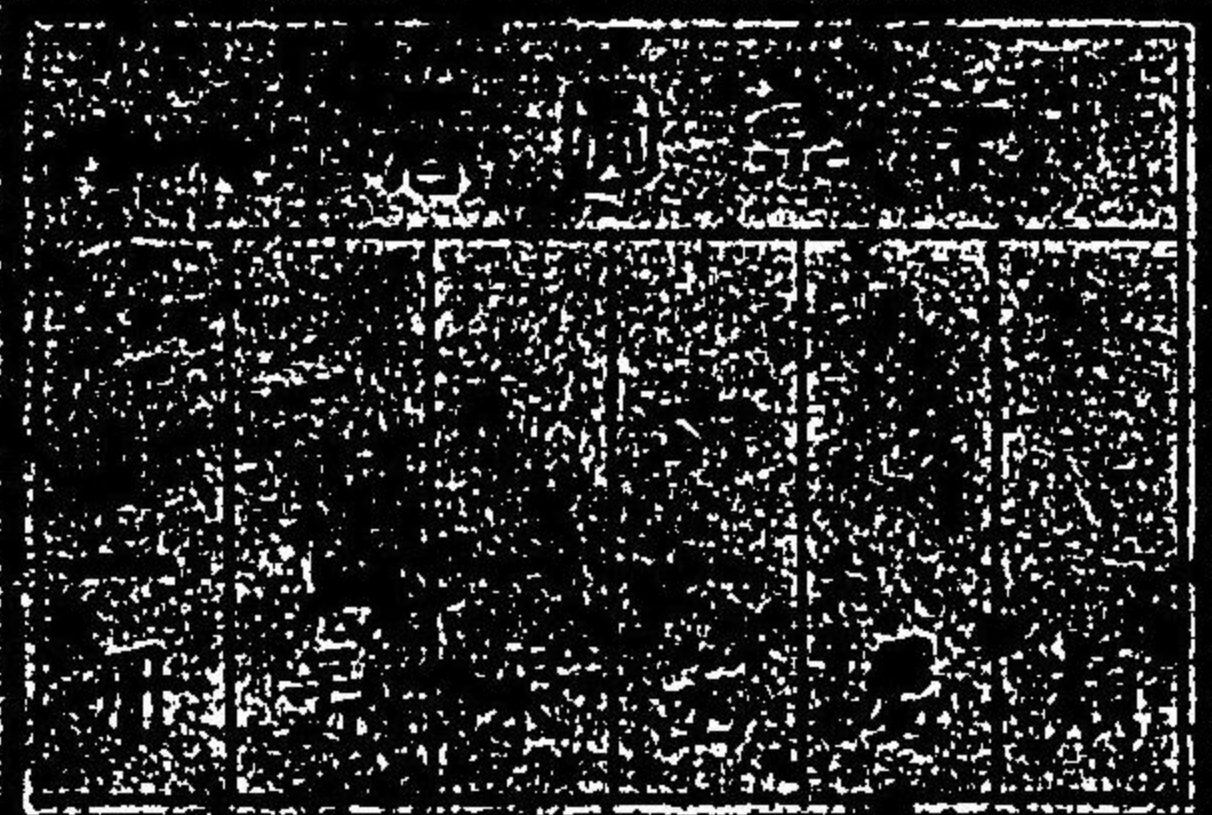
岡崎左喜介

全
足羽郡福井
照手上町五番地

琴洞尾崎廣
琴洞
廣



66
19



086424-000-7

66-19

白嶺百吟

布川 正沖 / 著

M13

DBD-1253

